

# がん検診にかかる受診意向調査報告書

平成 29 年 1 月

伊 達 市

## 第 1 調査の概要

### 1 調査の趣旨

市民のがん検診の受診率向上により、がんの早期発見と早期治療による健康増進を図るため、国の補助事業を活用して市が行うがん検診について市民のがん検診受診にかかる意向を調査し、その回答から市民にとって、よりがん検診が受診しやすい体制を検討するものです。

### 2 調査の対象

2, 778 名

※国の補助事業の対象規定から、平成 28 年 4 月 20 日において 20・25・30・35 歳である女性と 40・45・50・55・60 歳である男女から対象者抽出。

### 3 調査の項目

検診事業の認知手段、検診受診意向、検診を受診しない理由、検診を受診申しやすい方法、検診を受診しやすい実施体制など

### 4 調査の期間と回収率

- ・調査期間 平成 28 年 7 月 6 日から 10 月 3 日まで
- ・有効回答数 496 件
- ・有効回答率 17.9%

#### 【年齢別調査対象人数と回答人数の状況】

年齢	調査対象人数	回答人数	回答率	受診対象検診
20 歳	112	10	8.9%	子宮頸がん検診
25 歳	124	16	12.9%	
30 歳	151	27	17.9%	
35 歳	167	35	21.0%	
40 歳	511	77	15.1%	胃・肺・大腸・乳 ・子宮頸がん検診
45 歳	430	74	17.2%	
50 歳	418	74	17.7%	
55 歳	435	82	18.9%	
60 歳	430	101	23.5%	
計	2,778	496	17.9%	

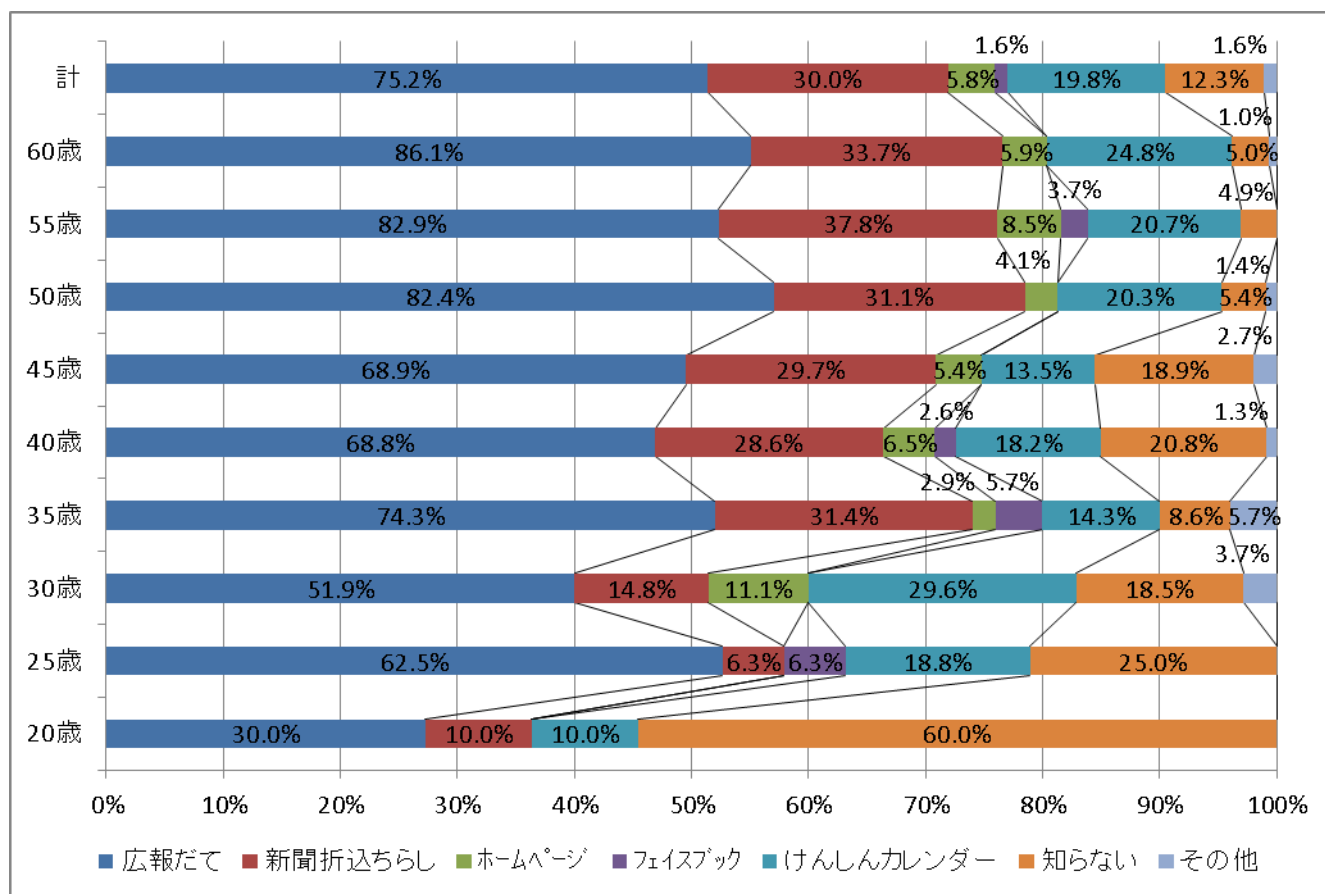
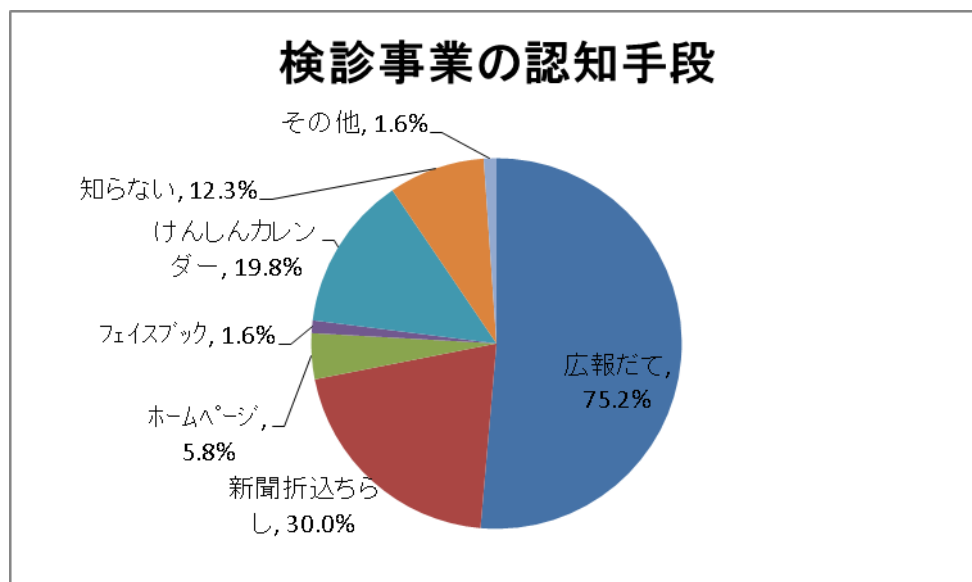
#### ※注意事項

- ・割合算出は分母となる回答数を N で表示し、N に対する回答割合を表示します。
- ・割合はすべて百分率で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入しており、回答割合の合計が 100% とならないことがあります。
- ・複数回答可能な設問においては、回答割合の合計が 100% を超えることがあります。

## 第2 がん検診にかかる受診意向調査の結果

### 1 検診事業の認知手段について（N = 496、複数回答可）

全体の約8割の方が「広報だて」で検診のお知らせを見たことがあると回答し、年代別で見ると、高年代になるほど広報による認知度が高くなるものの、20歳代では3割という結果になりました。



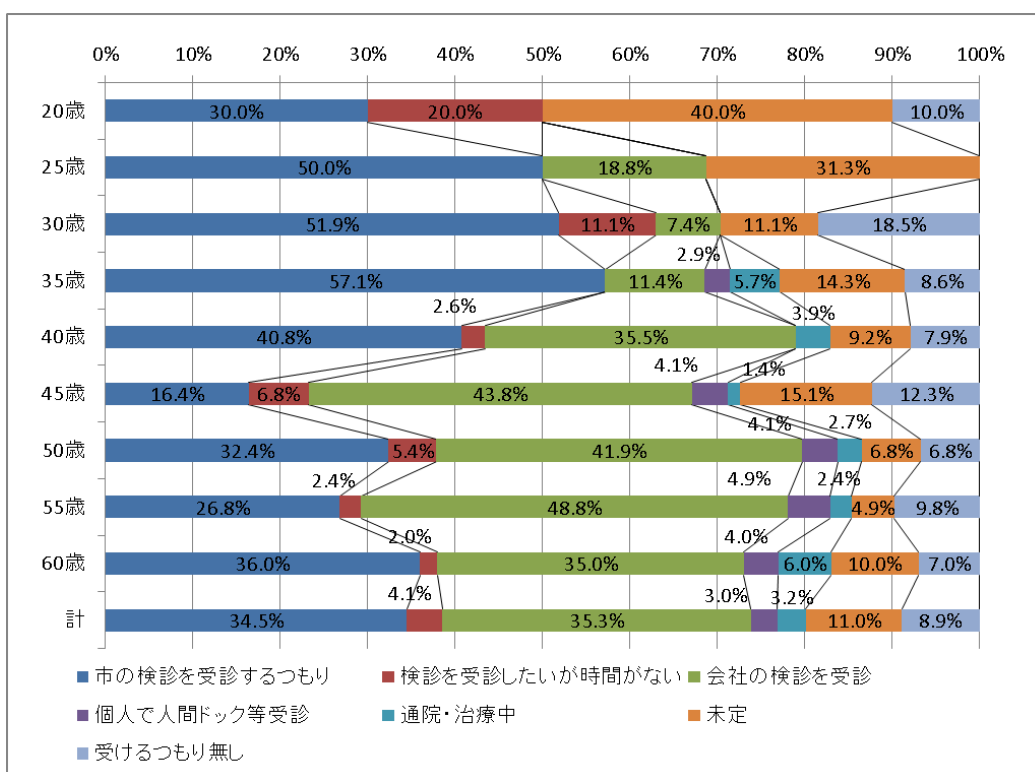
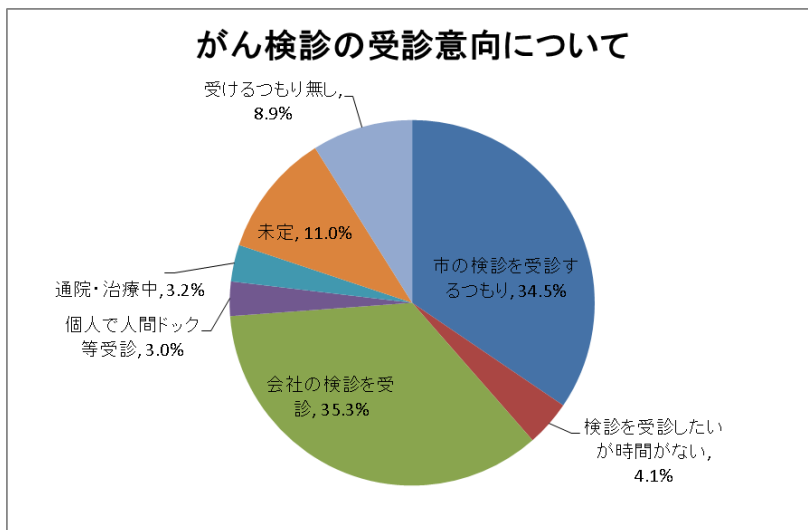
2 がん検診の受診意向について（N = 493、無回答3名除く）

「市のがん検診を受診するつもり」、「会社の検診があるので、市の検診は受けない」と回答する方がそれぞれ全体の3割強となり、何らかの形でがん検診を受診するという方は、全体の約7割となりました。

また、「まだ受けるかどうか決まっていない」、「受けるつもりはない」と回答する方はそれぞれ全体の約1割となりました。

年代別で見ると、20歳の方の約4割が「まだ受けるかどうか決まっていない」、25歳・30歳・35歳の方の約5割が「市のがん検診を受診するつもり」、40歳の方は「市のがん検診を受診するつもり」が約4割、「会社の検診があるので、市の検診は受けない」が3割強となりました。

45歳・50歳・55歳は約4割から5割弱の方が「会社の検診があるので、市の検診は受けない」と回答され、40歳以下と45歳以降の方で、市のがん検診と会社の検診受診選択に大きな差が出る結果となりました。

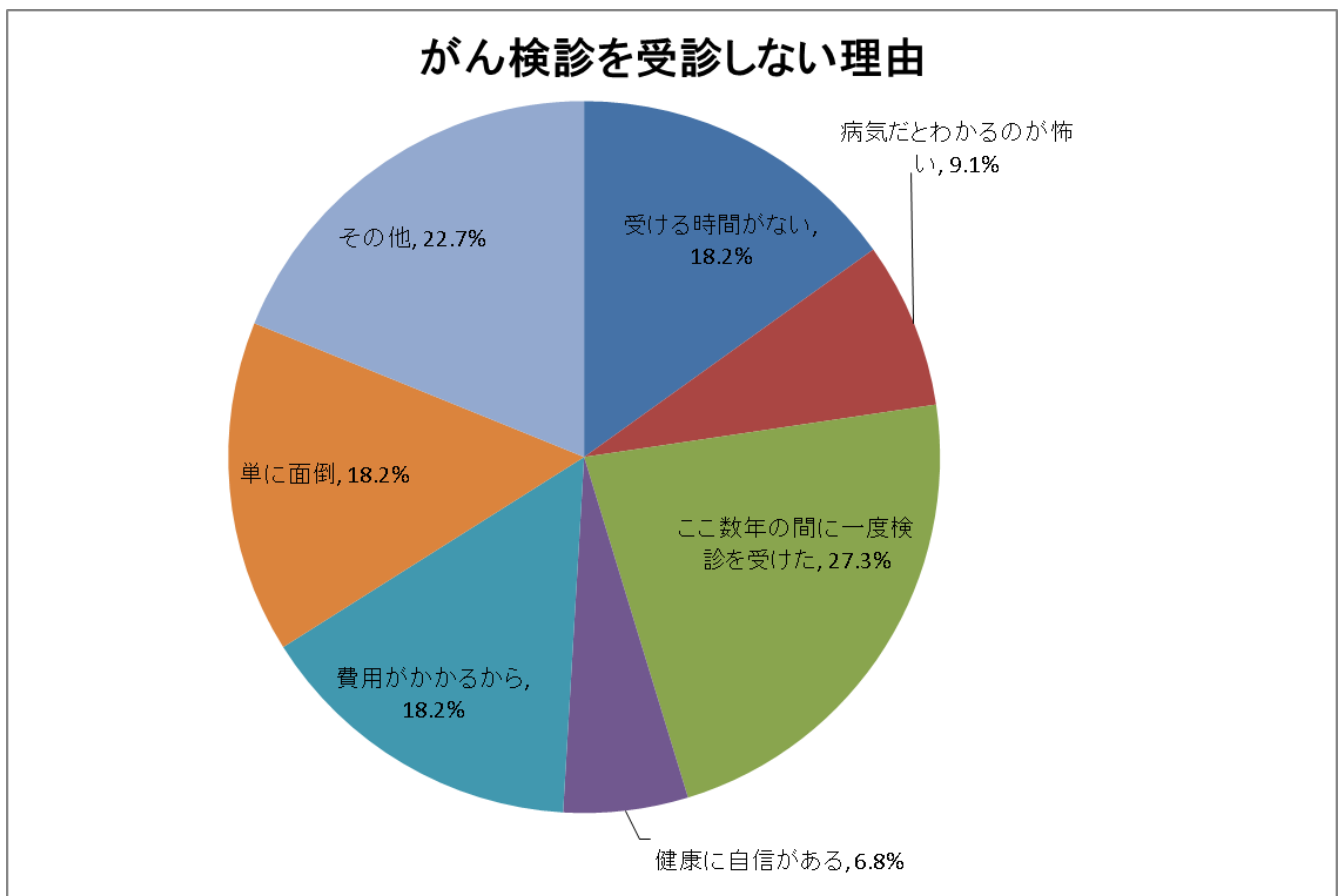


3 がん検診を受診しない理由について (N=44、複数回答可)

全体の1割弱の方が、がん検診の受診意向について「受けるつもりはない」と回答し、そのうち3割弱の方が「ここ数年の間に一度検診を受けた」と回答され、「受ける時間がない、単に面倒、費用がかかるから」と回答された方がそれぞれ2割弱という結果でした。

年代別にみると、30歳・35歳の方は8割以上の方が「ここ数年の間に一度検診を受けた」と回答し、40歳の方の約5割が「単に面倒」、50歳の方の約4割が「費用がかかるから」と回答されました。

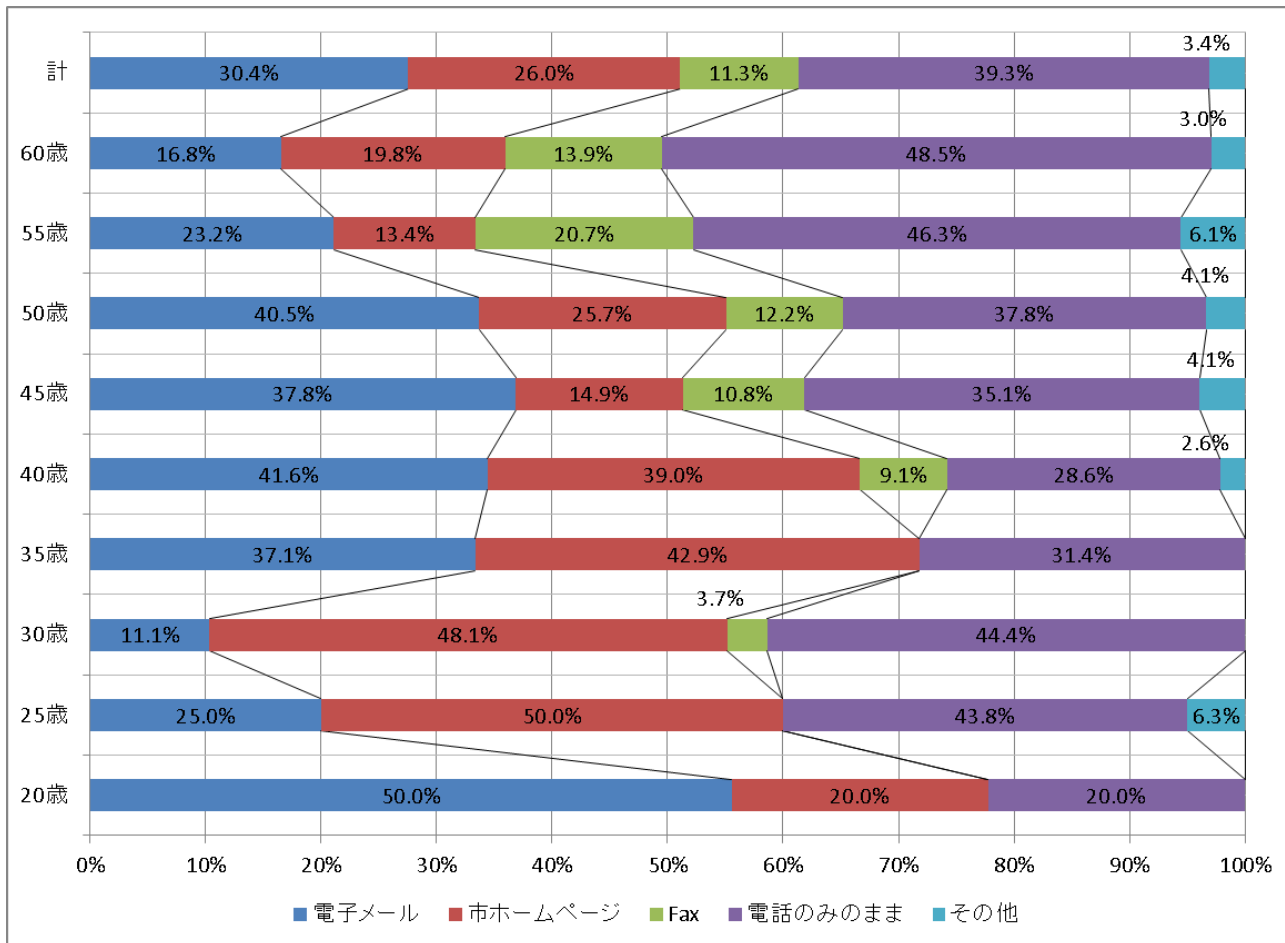
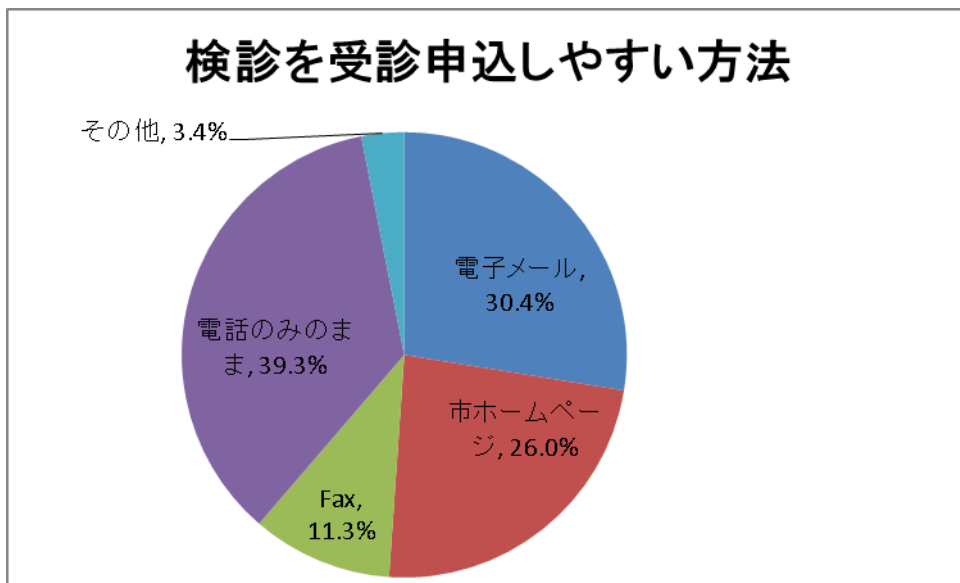
なお、その他の回答で、乳児がおり、預けられるところがないため予約しづらい、平日仕事をしているので土日や夜もあれば、と回答される方もおりました。



4 検診を受診申しやすい方法について (N=496、複数回答可)

全体の約4割の方が「電話のみのままでよい」と回答し、その他約3割の方が「電子メール」、3割弱の方が「市ホームページ」からの申込と回答し、年代別に見ると、電子メールまたは市ホームページと回答する方は、20歳から50歳では約5割から7割となり、55歳から60歳では約4割弱となりました。

「電話のみのままでよい」と回答された方は、35歳・40歳で約3割、その他の年代では約4割から5割でした。



5 検診を受診しやすい実施体制（N=496、複数回答可）

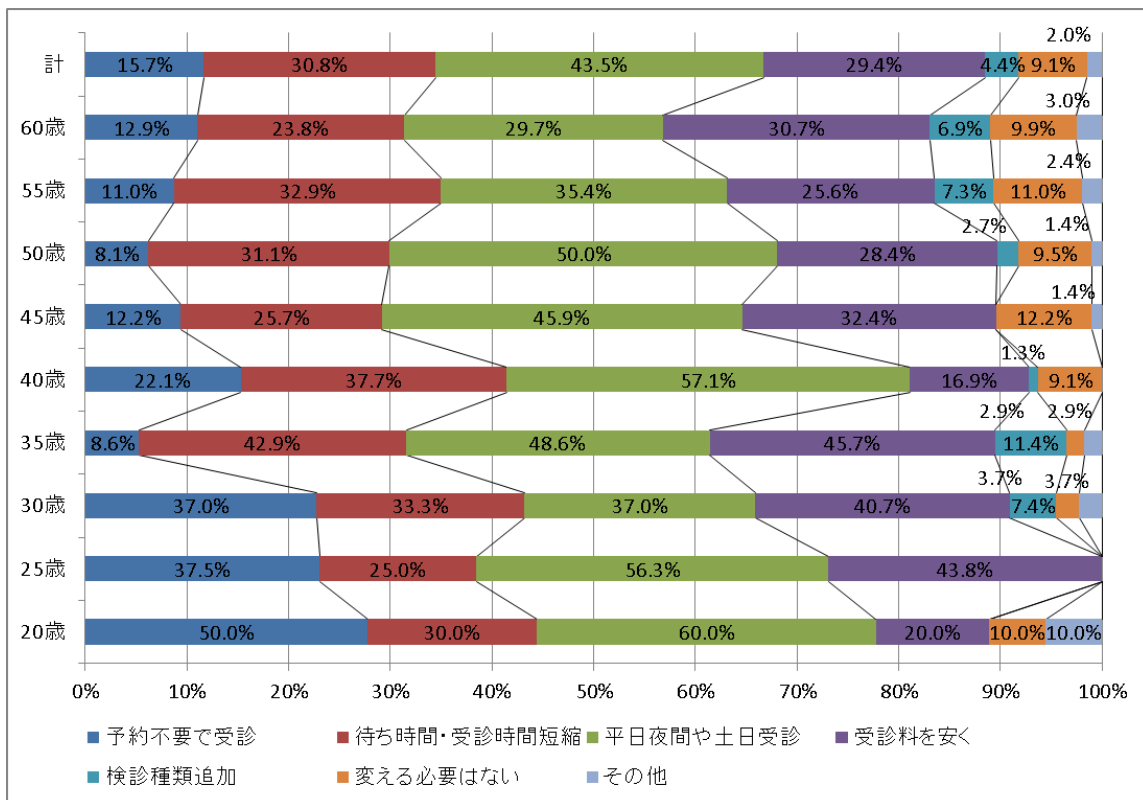
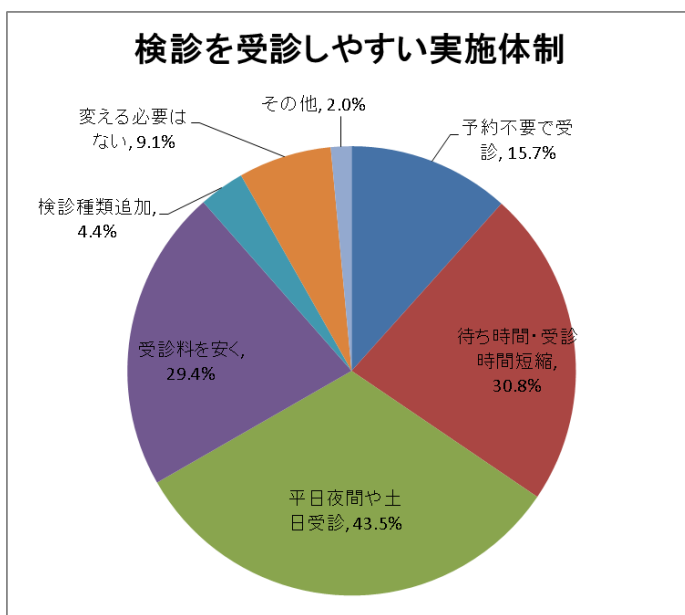
全体の約4割強の方が「平日夜間や土日受診」と回答し、「待ち時間・受診時間短縮」「受診料を安く」と回答された方がそれぞれ約3割となりました。

年代別では、「平日夜間や土日受診」について、30歳・55歳・60歳の方の回答は該当年代の約3割から4割でしたが、その他の年代の回答は約4割から6割となりました。

「待ち時間・受診時間短縮」について、35歳・40歳の方の回答が該当年代の約4割とその他の年代より高い割合となりました。

「受診料を安く」について、25歳から35歳の方の回答が該当年代の約4割以上と、その他の年代より高い割合となりました。

また、「予約不要で受診」について、20歳から30歳の方の回答が該当年代の4割弱から5割とその他の年代より高い割合となりました。



### 第3 がん検診にかかる受診意向調査の結果を受けて

がんについて日々治療方法が発達していますが、検診受診によりがんを早期に発見し、治療に繋げることが大切です。

検診事業は広報だてを中心に認知されているところですが、多くの方にがん検診受診の必要性をお伝えし、受診勧奨を行う必要があると思われま

す。今回の調査結果を受け、検診の実施体制について、今年度の子宮がん検診における託児コーナーの設置と周知、夕方乳がん検診の実施時間延長を図ったところですが、今後ともがん検診受診の必要性について市民の皆さんへ様々な手段でお伝えし、がん検診が皆さんにとって受けやすいものとなるよう、検診の受診勧奨と実施体制の整備を進めてゆきます。